ask

新・はじめての日本語教育

基本用語事典

- 高見澤孟　／監修
- 高見澤孟
- 伊藤博文
- ハント蔭山裕子
- 池田悠子
- 西川寿美
- 恩村由香子　／共著

日本語教育に携わるすべての方へ。
「これだけは」知っておかなければならない知識が満載です。

日本語教育能力検定試験対策にも最適。●最新の日本語教育事情がここにある！

新・はじめての日本語教育
基本用語事典

2004年3月5日 初版 第1刷 発行
2006年1月13日 初版 第3刷 発行

監修：高見澤孟
著者：高見澤孟
伊藤博文
ハント蔭山裕子
池田悠子
西川寿美
恩村由香子
装丁デザイン：青木 勢子
発行：株式会社アスク 語学事業部
〒162-8558 東京都新宿区下宮比町2-6
電話 03-3267-6866
発行人：天谷 修身
印刷・製本：図書印刷株式会社

許可なしに転載、複製することを禁じます。
落丁本、乱丁本はお取替えいたします。
©Hajime Takamizawa, Hirofumi Ito, Yuko Kageyama Hunt,
Yuko Ikeda, Sumi Nishikawa, Yukako Ommura 2004
Printed in Japan
ISBN4-87217-516-6

アスクホームページ
URL http://www.ask-digital.co.jp/

アスク語学専用サイト
URL http://www.ask-digital.co.jp/dash/

●弊社商品の詳しい情報は、アスクの語学専用サイトをご覧ください。こちらから弊社商品をお買い求めいただけます。

新・はじめての日本語教育

基本用語事典

江苏工业学院图书馆
藏书章

▪ 高見澤孟　／監修
▪ 高見澤孟
▪ 伊藤博文
▪ ハント蔭山裕子
▪ 池田悠子
▪ 西川寿美
▪ 恩村由香子　／共著

はじめに

日本語教育では、外国人学習者の増加と多様化に伴って教師が必要とする「知識」も学際的な分野をも含んで拡大しつつあります。また、2003年度から「日本語教育能力検定試験」の試験範囲もコミュニケーション理論、学習者心理、第二言語習得理論、評価理論などの分野に重点を置く改訂が行われ、試験問題にもそれが反映されつつあります。

本書は、それらの現状を踏まえて、「わかりやすい用語事典」を目指して旧版の改訂、増補を行い、教育現場でのニーズにも、受験対策の参考書としても役立つよう刊行の準備を進めてきました。

ただ、本書の解説方針は、あくまでも各種専門用語の基本概念の理解促進にありますので、さらに高度の知識を得ることを望む学習者は、分野別に掲載されている参考図書を参照していただきたいと思います。

2004年3月

監修者　高見澤　孟

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

新・はじめての日本語教育

[基本用語事典]

目次

第1章	教授法	高見澤孟	7
第2章	コース・デザイン／教材	高見澤孟	39
第3章	評価法	高見澤孟	51
第4章	音声	伊藤博文	63
第5章	文法	ハント蔭山裕子，恩村由香子	87
第6章	文字／表記	池田悠子	127
第7章	語彙／意味	池田悠子	139
第8章	言語学	西川寿美	151
第9章	社会言語学	伊藤博文	169
第10章	第二言語習得／バイリンガリズム	西川寿美	187
第11章	異文化間教育	西川寿美	211
第12章	日本語史／日本語学史	池田悠子	223
第13章	日本語教育史／日本語教育事情	高見澤孟	245

付録　参考図書ガイド……252

索引　……255

本書の使い方

本書は、日本語教育にまったく携わったことのない人から、現在日本語教育を学んでいる人、さらに実際に日本語教師をしている人まで、幅広く活用できるように作られた日本語教育の用語事典です。日本語教育にかかわる方々に必要とされていることばをわかりやすく解説しています。また、日本語教育能力検定試験対策にもご利用になれます。

全体構成

本書は、本編13章と参考・索引から成り立っています。

各項目

各項目は、基本用語を中心に、項目番号、英訳、類義語・同義語、説明、語句説明から成り立っています。英訳、類義語・同義語、語句説明はすべてにあるとは限りません。

> ①12 **直接法**(ちょくせつほう)② direct method③ ……ダイレクト・メソッド④
>
> ⑤媒介語⑥(⇔)を使わず、目標言語(⇔)だけを使って外国語を教える教授法の総称。伝統的な「文法訳読法⑤(☞1-19)」に対する反動から、(以下略)
>
> ⑥**媒介語**(ばいかいご):外国語教育で意味や文法の説明に使われる言語。通常は学習者の母語が使われる。

①項目番号…見出しの横にある小さな番号です。章内で通し番号になっています。

②基本用語…大きな字で書いてある見出し語が基本用語です。

③英訳…英語でも使われる語には、英訳を付けました。

④類義語・同義語…見出し語と類義・同義の語を右側に載せました。

⑤説明…用語の説明があります。ほかで説明してある用語は(☞1-19)というように参照項目を示しています。この場合、1-19は、第1章の19番目、つまり「文法訳読法」を参照するようにという意味です。章番号は右ページ端の黒い部分をご覧ください。

⑥語句説明…説明の中で重要な語や専門用語には(⇔)として、下に説明を付けました。

参考図書

各章ごとに参考図書を紹介しています。どれも初心者にとって読みやすい本を選びました。参考にしてください。

索引

巻末に索引があります。索引の数字もページ番号ではなく、本文にある項目番号です。

周辺教材のお知らせ

「新・はじめての日本語教育／はじめての日本語教育」シリーズには以下の製品があります。併せてご利用いただくとよりいっそう理解が深まります。

新・はじめての日本語教育１　－日本語教育の基礎知識－

音声・文法・表記・語彙・社会言語学・心理学など日本語教育の基礎知識を満載。予備知識のまったくない人にもわかりやすいように解説しています。日本語教育検定試験対策の入門書としてもご利用いただけます。「音声」は『ビデオ はじめての日本語教育・１－日本語の音声－』に対応しています。

新・はじめての日本語教育２　－日本語教授法入門－

日本語のコミュニカティブな指導法を学習者のレベル別に解説。日本語教師の役割・教師の心構えから、コースデザインや評価・外国語教授法など、理論から実践まで幅広く紹介しています。『ビデオ はじめての日本語教育・２－初級の指導－」『ビデオ はじめての日本語教育・３－中上級の指導－』に対応。ビデオとテキストでよりいっそう理解が深まります。

ビデオ はじめての日本語教育・１　－日本語の音声－

拍・アクセント・イントネーションなど日本語の音声の基礎知識が学べるビデオ。書籍だけではわかりづらい日本語音声学の基礎が目と耳から楽々理解できます。個々の音については口内図を用いて丁寧に解説しています。学習者や教師の発音クリニックにも使えます。

ビデオ はじめての日本語教育・２　－初級の指導－

著者の先生の実際の授業を見ながら指導のイメージをつかめます。初級レベルの学習者を対象とした発音・会話の教え方を、導入→定着→実践の段階を追って解説。工夫を凝らした文字の教え方も紹介。テキスト『新・はじめての日本語教育２　日本語教授法入門』に対応。

ビデオ はじめての日本語教育・３　－中上級の指導－

中上級レベルの学習者を対象としたロール・プレイ、シミュレーション練習、プロジェクト・ワークなどのコミュニケーション能力をつける練習法とテレビ・ドラマなどの生教材を使った授業を紹介。テキスト『新・はじめての日本語教育２　日本語教授法入門』に対応。

第1章

教授法

教授法 ……8
いろいろな外国語教授法……13
教育技術／実習関連……31

教授法

1 教授法（きょうじゅほう） teaching method

教育を効果的に行うための方法論であるが、言語教授法は、(1) 言語の本質を考察して、それをいかに教えるべきかを検討する基礎理論、(2) 人がどのように言語を習得するかを研究し、言語をより効果的に学習する方法を検討する学習理論、(3) 教材をどう扱うべきか、どのような手順で指導すべきかなど教授方法を検討する指導法理論の3分野から成っている。教室内での授業は、(3) の指導法理論に基づいて行われるが、その具体的な指導方法は、基礎理論や学習理論で研究された仮説や原理を体系化した産物であると言える。

2 アプローチ approach

言語の本質やその習得・学習について仮説を立てて、それに基づいて体系化された言語学習理論。例えば、オーディオ・リンガル・アプローチ（☞ 1-30）は、「言語は構造体である」とか「言語は本質的に音声である」といった仮説に基づいているが、他方ナチュラル・アプローチ（☞ 1-54）では、「第二言語の能力は習得によって達成され、学習はそれを補足、訂正する従属的な役割しか果たしえない」という仮説がその理論の基礎になっている。このアプローチに従って考案されたさらに具体的な教授法手段がメソッド（☞ 1-3）であるが、この二つはしばしば混用されている。

3 メソッド method

基礎理論であるアプローチ（☞ 1-2）に基づいて開発された言語の教授法。オーディオ・リンガル・アプローチの「言語の習得は習慣形成の過程である」という理論から「暗記・模倣」のミム・メム練習（☞ 1-35）や文型練習（☞ 1-36）が開発されたのがその例である。

4 テクニック technique

効果的な授業を行うための技法。対話の発音教育に際して何をすべきか、ドリルをどう進めるべきかなど具体的な指導技術や秘けつを指す。

5 第一言語（だいいちげんご）／第二言語（だいにげんご） first language／second language ……L1（エルワン）／L2（エルツー）

幼児が最初に習得する言語を第一言語と言う。これに対して、第一言語が確立してから、意識的に学習する言語を第二言語と言う。二言語使用者（☞ 10-55）の場合は、物を考えるときに主として使う言語を第一言語とする。（☞ 10-3、10-56 第一言語のバイリンガリ

ズム、10-1 母語）

6 目標言語（もくひょうげんご） target language ……ターゲット・ランゲージ

学習の対象になる第一言語（☞1-5）以外の言語（＝第二言語　L2）を言う。例えば、中国人に対する日本語教育では、日本語が目標言語で、中国語が第一言語になる。

7 第二言語習得（だいにげんごしゅうとく） second language acquisition ……

ナチュラル・アプローチ（☞1-54）では、成人の第二言語学習には「習得」と「学習」の2種類があるとしている。前者は幼児が母語を身に付ける過程のように、実際のコミュニケーションの場でその言語を意識せずに使いながら能力を付けていく方法で、後者はクラスなどで意識的に言語の形式や規則を学ぶ方法を言う。円滑なコミュニケーションを行う第二言語の能力は「習得」によって達成され、「学習」は「習得」の補足的役割しか果たしえないとされる。

8 コミュニケーション能力（のうりょく） communication competence ……

言語的に正しい文を作り出すような能力だけでなく、状況に合った言語行動が可能で、しかも会話の主題や場所に適切で、相手との人間関係を良好に保てるような話し方や聞き方ができる能力を指す。この能力は、(1)「言語能力」、(2)「社会文化的能力」、(3)「方策的能力」（☞）から成ると考えられている。

言語能力（げんごのうりょく）：文法や用法、語彙力、発音能力などを駆使して、正しい文を作り出す能力。

社会文化的能力（しゃかいぶんかてきのうりょく）：社会的慣行に適合したコミュニケーションを行える能力。

方策的能力（ほうさくてきのうりょく）：相手の意図を正しく理解し、自説を上手に展開できる能力。さらに、言語能力が不足している場合、ほかの方法でそれを補う能力も含まれる。

9 言語行動（げんごこうどう）／非言語行動（ひげんごこうどう） language behavior／non-language behavior ……

言語行動とは言語を意思伝達の手段として行う行為で、「話しことば」による聴覚的な伝達だけでなく、「書きことば」による視覚的な伝達も含まれる。それに対して表情や身ぶり、視線、話し手の身体の向き、相手との距離などや、アクセントなどの周辺言語（言語行動に伴って発生する声の質や高さ、音量、調子などを指す）を含めた行動を非言語行動と言う。言語行動によるメッセージが「意味」を伝えるのに対して、非言語行動は話し手の「気分」や「態度」を伝えるので、場合によってはより重要なメッセージであると考えられる。実際のコミュニケーションでは、意思の伝達はこの言語行動によるメッセージと言語

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

によらない非言語行動のメッセージで行われる。

10 言語の転移 language transfer

第二言語や外国語の学習において、母語の言語習慣が意識的あるいは無意識的に目標言語に影響することを言う。このような転移は、文法、語彙や表現の用法、発音などのあらゆる面で見られる。（☞ 10-16 転移）

11 心理言語学 Psycholinguistics

言語行動の心理的な側面を研究する言語学と心理学の新しい学際的な分野。言語の「習得」と「使用」、「理解」と「産出（production　文を作り出す活動）」などの過程を解明することが中心課題となっている。

12 直接法 Direct Method ……ダイレクト・メソッド

媒介語（↔）を使わず、目標言語（↔）だけを使って外国語を教える教授法の総称。伝統的な「文法訳読法」（☞ 1-19）に対する反動から、口頭言語能力の向上を目指して19世紀から20世紀初頭にかけて開発された教授法の多くが直接法に属している。これらは基本的には幼児が母語（↔）を習得するのと同じ方法で外国語を学習させようとしている。言語の意味は実物や絵、動作などを通して紹介し、文法は帰納的（↔）に学習させるなどの特徴がある。日本語教育では、学習者の母語がばらばらで、媒介語の使用が不可能なクラスで使われている例が多い。

媒介語：外国語教育で意味や文法の説明に使われる言語。通常は学習者の母語が使われる。

目標言語　target language：学習の対象になっている言語。（☞ 1-6）

母語　mother tongue：幼児が最初に習得する言語。（☞ 10-1）≒第一言語（☞ 1-5）

帰納的学習：多くの実例に接してから、そのルールを発見する学習法。これに対してルールを説明してから実例を学ばせるような学習方法は、**演繹的学習**と言う。

13 折衷法 eleaticism

直接法（☞ 1-12）と媒介語を使用する教授法の中間的な教え方。(1) テキストには媒介語による対訳や文法・用法の説明があるが、教師は授業では目標言語しか使わない方法と、(2) テキストには媒介語が使われていないが、教師が媒介語を使ってテキストの内容を翻訳したり、文法や用法の解説をしたりする方法がある。日本語教育の場合、(1) は国内の日本語学校などでよく使われ、(2) は海外の大学などの教育機関で行われていることが多い。

14 訳読系メソッド Translation Methods

外国語を学習者の母語に翻訳することを通して教育する教授法。中世のラテン語教育などに用いられた文法訳読法（☞1-19）などが代表的な例である。学習の対象は「書きことば」で、読むことが学習の主体になる。文法・用法は演繹的に教えられ、翻訳を通して意味の理解や母語との対比が教えられる。文献から情報を収集する訓練としては効果的であるが、口頭会話能力の育成には向いていない。訳読系メソッドには、ほかにもプラクティス・メソッド（☞）やマスタリー・メソッド（☞）などがある。

プラクティス・メソッド　Practice Method：日常会話を訳読法を通して学習させる教授法。19世紀にオーレンドルフ（H. S. Ollendorff）によって提唱された。（☞1-20）

マスタリー・メソッド　Mastery Method ：目標言語の文を暗唱できるまで反復練習してから、教師がその文を翻訳し、さらに学習者に翻訳させて、徹底的に学習させる教授法。19世紀にプレンダガスト（T. Prendergast）によって提唱された。

15 ダイレクト系メソッド Direct Methods　直接法系教授法

母語の習得過程を「自然的な順序」として外国語教育に取り入れた教授法で、口頭会話能力を優先した直接法（☞1-12）系統の教授法の総称。訳読系（☞1-14）の教授法とは対照的に、この系統の教授法は媒介語の使用を徹底的に排除する。新しく導入されることばの意味が、事物を通して直接（ダイレクトに）ことばと結び付けられることを理想としている。ダイレクト系メソッドには、グアンのサイコロジカル・メソッド（☞）やベルリッツのナチュラル・メソッド（☞）、パーマーのオーラル・メソッド（☞）などがある。

サイコロジカル・メソッド　Psychological Method：19世紀の後半にグアンが幼児の言語習得における心理的側面を重視して開発した直接法。幼児は思考の順序に従ってことばを用いるところから、教材を思考の順に配列することなどを特徴としている。（☞1-22）

ナチュラル・メソッド　Natural Method：19世紀後半にベルリッツなどによって提唱された教授法。幼児の言語習得の過程を最も理想的な外国語学習のモデルとして、外国語の音声とその概念の直接連合（direct association）を目指す直接法。（☞1-21）

オーラル・メソッド　Oral Method：イギリスの言語学者、パーマーによって開発された教授法で、日本の英語教育、日本語教育に大きな影響を与えた。（☞1-25）

16 認知系メソッド Cognitive Code-Learning Methods

キャロル（J. B. Carroll）が1965年に提唱した認知記号学習理論（Cognitive Code-Learning Theory, ☞1-46）系統の教授法。構造言語学や行動心理学に基づくオーディオ・リンガル・アプローチに対する批判（☞1-31）から生まれたもの。理論的根拠を当時の生成文法理論（☞1-47）や認知心理学（☞1-46）に求め、「学習はすべて認知である」という基本理念から、オーディオ・リンガル・アプローチの習慣形成理論（⇔）や直接法的な文法の帰納的学習（⇔）を排除した。理解に基づく学習を目指し、文法も構造の練習に先立って演繹的（⇔）に提示し、類推を働かせて分析的に学ばせる方針を採っている。

習慣形成理論：言語は習慣であり、言語の学習とは新しい習慣を獲得することで、そのためには学習項目の反復繰り返し練習が必要であるとする理論。

帰納的学習：多くの実例に接して、そこからルールを学び取る学習方法。

演繹的学習：ルールを教えてから実例を示し、それを分析的に理解する学習方法。

17 聴解系メソッド Comprehension Methods

言語の習得において、「理解」が基本的な役割を担うという考えから、発話能力よりも聴解能力の育成を優先させ、発話のための口頭練習は聴解能力が向上するまで延期する教授法。この系統の教授法には、ポストフスキーのコンプリヘンション・アプローチ（☞1-42）、アッシャーのTPR（☞1-50）やウィニッツのOHRメソッド（☞1-43）、クラッシェンのナチュラル・アプローチ（☞1-54）などが属する。

18 精神力学系メソッド Psychodynamic Method

学習者の心理の安定を重視し、その能力が最大限に発揮されることを目的とする学習者中心の教授法。学習者の不安を取り除き、学習者が防衛的学習態度（⇔）に陥ることを避けるために、学習者をリラックスさせるさまざまな方法を採る。幼児の言語習得過程のようなストレスのない言語学習を目指すサイレント・ウェイ（☞1-51）やカウンセリングの技法を応用するCLL（☞1-52）、暗示の力を利用するサジェストペディア（☞1-58）などがこの系統に属する。

防衛的学習態度：不安を感じている学習者が誤用を避けるためにクラス活動への参加が消極的になることを言う。

いろいろな外国語教授法

19 文法訳読法（ぶんぽうやくどくほう） Grammar-Translation Method

中世ヨーロッパでラテン語教育のために開発された教授法。目標言語の文法規則や語形変化を暗記させてから、目標言語の文を母語に訳すことによってその意味を理解し、語彙を学習する方法で、読み書きの訓練が中心となる。文献から情報を得るのがこの教授法の主目的なので、口頭練習や音声指導は重視されず、聴解や発話の能力を育成するのには向いていない。そのために、19世紀以降の口頭コミュニケーションを目指す外国語教育には適していなかったので、次第にオーラル・メソッド（☞ 1-25）などの直接法系の教授法に取って代わられることになった。

20 プラクティス・メソッド Practice Method

19世紀中頃、**オーレンドルフ**（H. S. Ollendorff）や**アン**（J. F. Ahn）などによって開発された、訳読法と口頭練習を組み合わせた折衷的教授法。文法規則などは演繹的に紹介されるが、練習の中心は日常表現の口頭練習で、特に機械的な問答形式の練習（答えが機械的に出てくる問答）を通して習慣形成を目指すのが特徴。日本でも明治時代の英語教育で使われていた。

21 ナチュラル・メソッド Natural Method

文法訳読法（☞ 1-19）への批判から生まれた口頭言語中心の教授法の総称。ダイレクト系メソッドの一つ。幼児が母語を習得する過程をモデルにして、目標言語の学習を直接法で行うので、ナチュラル・メソッド、つまり自然的学習法と呼ばれる。アメリカのベルリッツ（☞）とフランスのグアン（☞）が代表的な提唱者である。

ベルリッツ　M. D. Berlitz：アメリカの語学教育家。ナチュラル・メソッドの一種であるベルリッツ・メソッドを開発、世界中にベルリッツ校を開設した。

ベルリッツ・メソッド　Berlitz Method：ルソーの自然主義理論に基づいて幼児の言語習得過程を積極的に外国語教育に取り入れ、外国語の音声とそれが表す概念を直接に結び付ける教え方を工夫した。その理論と技法がその後のダイレクト系メソッドに大きな影響を与えた。

グアン F. Gouin：19世紀後半のフランスの古典語教師。幼児の母語習得の過程の観察からそれをモデルとした言語教育の方法を考案した。（☞ 1-22）

22 サイコロジカル・メソッド Psychological Method

シリーズ・メソッド, 心理学的教授法, グアン・メソッド

グアン（F. Gouin）は理論的根拠を発達心理学（⇔）に置き、言語習得における幼児の心理的な側面を重視した。この教授法では、「幼児は思考の順序でことばを使う。従って、教材も思考の順に配列すべきである」という考えで、まず教師が一連の動作を目標言語で記述しながら行い、次に学習者が同じ文を言いながら同じ動作を行うなど、特徴ある教え方が採られていた。このため、この指導技術をシリーズ・メソッド（Series Method＝**連続法**）と呼ぶこともある。ナチュラル・メソッド（☞1-21）の一種と考えられているが、完全な直接法（☞1-12）ではなく、入門期には、学習者の母語を媒介語として使うことも認めていた。また、サイコロジカル・メソッドとシリーズ・メソッドを合わせて提唱者の名前からグアン・メソッド（Gouin Method）と呼ぶことがある。

発達心理学：精神の発達を扱う心理学の領域で、幼児心理から青年心理、老人心理と発達段階を順次研究する方法と、フロイトのように成人の心の中にある過去の経験を精神分析することによってさかのぼり、子供の心理を理解しようと試みている方法とがある。

23 フォネティック・メソッド Phonetic Method

19世紀後半に提唱された、発音記号を外国語教育に取り入れた教授法。発音を重視して、文法は帰納的に学習することとした。目標言語を直接その概念と結び付けるので、母語を媒介語として使用することはなく、一種のナチュラル・メソッド（☞1-21）と言える。イギリスの**スウィート**（H. Sweet）やデンマークの**イェスペルセン**（O. Jespersen）などが推進者。発音記号の利用によって正確な発音を教えることができるという意味で、近代の最初の科学的教授法とも言われているが、この理論の基礎は、当時の音声学と心理学の古典的理論とも言える「連想」に基づいている。

24 エクレクティック・メソッド Eclectic Method

20世紀初頭、直接法に代わってヨーロッパやアメリカで採用されるようになった教授法。直接法的だが、媒介語の使用も認める折衷法（☞1-13）であった。特に直接ヨーロッパ人とコミュニケーションを行う機会の少ないアメリカでのヨーロッパ言語の教育で使用された。媒介語による文法の演繹的指導とリーディング重視が特徴となっている。入門レベルでは、発音記号を使用して発音練習やリーディング、スピーキングの練習を行い、習熟したら同じ内容を目標言語の文字で書き表したものをリーディング用に利用し、翻訳や自由作文の授業を行う。

25 オーラル・メソッド Oral Method

日本の英語教育に大きな影響を与えた**パーマー**（☞1-26）が開発した口頭コミュニケーションを重視した教授法。パーマーの言語教育観は「公理10条」（◇）に示されているが、ソシュール（◇）の理論に基づいて「記号としての言語」（◇）と「運用としての言語」（◇）を区別し、後者の訓練を習慣形成理論（◇）によって達成しようとした。授業では、幼児の母語習得をモデルに音声言語の運用練習を中心に次のような7段階の練習が行われた。（1）聴解練習、（2）発音練習、（3）反復練習、（4）再生練習、（5）置換練習（◇）、（6）命令練習（◇）、（7）定形会話（◇）。

公理10条（こうりじょう） Ten Axioms：（1）言語は言語記号から成る。（2）言語は「記号の体系」と「運用」の両面がある。（3）言語習得は、言語心理学的には言語記号と意味の一致、融合によって達成される。（4）言語学習において習得すべき技能には、基本的なものと副次的なものがある。（5）ヒアリングとスピーキングは基本的技能である。（6）リーディングとライティングは副次的技能である。（7）翻訳は副次的技能である。（8）発音は言語の必須要素であり、それは単音とその配列にかかわる。（9）文法は言語の必須要素であり、慣用に基づいて文を構成することにかかわる。（10）少数の語彙を完全に習得することは、多数の語彙を習得する準備になる。

ソシュール　F. Saussure：スイスの言語学者。言語を言語の体系を示す「ラング」（☞8-3）と、それがある個人に具体的に運用された発話行為としての「パロール」（☞8-3）に分け、さらに人間が遺伝的に持っている「言語能力」を「ランガージュ（language）」と名付けた。（☞8-61）

記号としての言語（きごうとしてのげんご）：ソシュールの「ラング」に当たる「体系としての言語」を指す。

運用としての言語（うんようとしてのげんご）：ソシュールの「パロール」に当たる「実際的な言語行動」を指す。

習慣形成理論（しゅうかんけいせいりろん）：言語は社会的な習慣であり、それを獲得するためには反復繰り返し練習することが大切であるという理論。

置換練習（ちかんれんしゅう）：語彙を入れ替えて、同じ文型で新しい文を作る練習。現在の「代入練習」（☞1-37）と同様の練習方法。

命令練習（めいれいれんしゅう）：教師の命令に従って学習者が動作をする練習。TPR（☞1-50）の前駆的な練習方法。

定形練習（ていけいれんしゅう）：自由会話ではなく、問答方式などによって学習者が「一定の答え」を求められている練習方法。

26 パーマー Harold E. Palmer 1877 - 1949

20世紀初頭ヨーロッパ諸国で英語やフランス語の教師を歴任した後、1915年からロンドン大学で教授法や音声学を講じていたが、1922年に文部省の英語教育顧問として来日、翌年設立された英語教授研究所の初代所長に就任した。その教授法理論は、当時盛んだった

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com